



2012 Report from ^{Faculty Development} **FD Salon** of RUCED
12-1

龍谷大学 FDサロンレポート

2012年度新任教員フォローアップ研修

日時：2012年9月19日（水）14：30～16：30

会場：深草学舎 至心館2階 パドマ2階大会議室

参加対象：2012年度本学着任の教育職員

大学教育開発センターでは、本年度龍谷大学に着任した教員を対象として、本学での教育研究活動等を円滑に進めていくためにフォローアップ研修を実施しています。

今年度は、4月に実施した就任時研修のフォローアップとして、長谷川大学教育開発センター長、教学企画部の河村課長を交えて開催し、前期の教育活動を振り返りながら、各先生の抱える様々な課題を把握するとともに、交流を図りました。

はじめに

〈長谷川センター長〉

新任の先生方は前任校等があって教員としてのキャリアを重ねている方、あるいは教壇に立つのが

初めての方などさまざまだと思います。本日は、まず昨今の大学教育の動向について、現在大学が置かれている状況と、どのような課題があるのかについて簡単に説明させていただきます。後半は、4月の就任時研修から半期が過ぎたこの段階で、フォローアップとして龍谷大学に就任して授業等を行って行く中で生じた課題、あるいは必要だと思われる情報について意見交換を行いたいと思います。

昨今の大学教育をめぐる動向について

8月28日に中央教育審議会から、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」が出ています。少なからず今後、この答申が影響を及ぼしてくることは確実だと思います。この答申の背景には、これまで大学教育に対してこういった課題が向けられてきたかという流れがありますので、その点を概要的に説明したいと思います。

大学教育をめぐるのは、ここ10年で様々な動きがあり、2004年には認証評価機関が行う第三者評価の受審が義務化されました。本学は2006年度に1度目を受審し、認証評価サイクルの2巡目となる今回は2013年度に受審します。

2巡目の焦点は「内部質保証」で、各大学で点検



評価のシステムが機能してスパイラルアップにつながっているかがポイントとなります。1巡目と2巡目の認証評価の焦点の違いも、ここまでの大学教育をめぐる動向を反映しているのです。

認証評価が2004年に義務化された後の流れはご存じかもしれませんが、2007年には大学院におけるFDの義務化が大学設置基準の中に盛り込まれるようになりました。さらに、「人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的」を学則等に定め、その下に教育課程を編成することが設置基準の中に盛り込まれたことによって、各大学は既にあったものも再検討し、学則等に取り急ぎ定めるという作業を行ったわけです。

2008年には学部におけるFDが義務化され、本学では以前からのセンターの活動に加えて各学部にFD委員会を設置し、体制づくりを進めました。

中央教育審議会は同じ2008年に、「学士課程教育の構築に向けて」という答申を発表し、学士力や質保証という点については、この流れが今の大学教育をめぐる動向の中で大きく反映されています。DP（学位授与の方針）・CP（教育課程編成の方針）・AP（入学者受け入れの方針）という3つの方針を定めて明示し周知する必要性が述べられ、各先生方の所属学部等の履修要項を見ていただくと、これら3つの方針は初めの方のページに述べられていると思います。

その後、2011年には大学設置基準で教育研究活



動等についての情報公開が義務化され、同じ年に出された「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」では、各大学において学生のキャリア形成を教育としてどのように捉えるかが課題となっています。続く「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～答申」では、世界で活躍できる専門家を育てる大学院について方向性が打ち出されています。そして今年に入って、まず審議まとめとして「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」が出され、その内容を受けて今回「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～（答申）」へと続くのです。

このような答申が出されるたびに、そこで提起された課題に対して、大学は、ある意味義務的に「対処」という感覚で対応してきた側面があることは否めません。

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」について

答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」では、目次を見ると大学の役割と今回の答申の趣旨や基本的な視点等が項目立てがなされ「求められる学士課程教育の質的転換」として2008年の「学士課程教育の構築に向けて（答申）」から一歩進めた質的転換について述べられており、今後の具体的な改革方策というところまで踏み込んで書かれています。

「求められる学士課程教育の質的転換」の項目では「生涯にわたって学び続ける力」、「主体的に考える力を持った人材の育成」、さらには「アクティブラーニング」など3月に出された「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ（審議まとめ）」から受け継いだ課題に触れています。



また、「大学関係者等は、学士課程教育の質的転換が待ったなしの課題であり、若者や学生、地域社会、産業界を含め、社会全体にとって極めて切実な問題であることをあらためて認識する必要がある」と、われわれに対してのメッセージが盛り込まれています。

「学士課程教育の質的転換と学修時間の現状」では、予復習を含めた学修時間を標準とする単位の実質化の課題について記載されています。本学でも今年度から、学部によって異なりますが、シラバスの項目に原則として具体的に「予復習の指示」を記載することになっていることは周知のとおりです。

速やかに取り組むことが求められる事項では、「学長のリーダーシップ」「プログラムとしての学士課程教育」というフレーズが度々出てきますが、つまり「学部等の縦割りの構造を超えて、学士課程教育をプログラムとして機能させるため」の体制が求められています。また、アセスメント・テスト（学修到達度調査）、学修行動調査、ルーブリック等、学生の学修成果の把握の具体的な方策についても触れられています。「学修成果を重視した認証評価が行われることが重要である」とも明記されており、学修成果をどのように明示するのか、測定するのかが課題となります。非常に難しい問題で、安易に手を付けて基準を定めればよいという問題ではありませんが、学修成果を測ることによって質保証が可能となるという文脈です。

このように、実際に大学としても単に文部科学省がまとめたというだけでなく、これまでのそれぞれの答申を一連の流れとしてとらえて主体的に課題認識していく必要があると思います。

FDに関しては、FDの義務化を受けて、各学部の中にFDを運営する組織があります。各学部で主体的に取り組んでいただいているFDと、私ども大学教育開発センターで全学的に執り行うFDの2つが学内的に実施されており、どちらも積極的にご参加いただければと思います。全学的なFDの取組みや、学部や大学院での取組みは、適宜ホームページやセンター Newsで案内をしていますので、これらもご活用ください。

それでは、お配りしているワークシートに現在生じている問題や今後の方向について危惧していることなどを簡単に書いていただいて、それをもとに意見交換を行いたいと思います。

意見交換

意見交換では主に以下のような質問が出されました。

Q1 Webシラバスの記載内容は変更できるのですか。

Q2 今、私が課題にしているのは、よく遅刻してくる、あるいは学校に出てこない学生です。特に単位僅少者の学生がいるので、こちらからメールで呼び掛けると最初は返信がありますが、そのうち返事が返ってこなくなります。心の問題を抱えている学生もおり、どう関わっていけばいいかということが、今私が抱えている一番の課題です。

Q3 授業には出席するのが当たり前ですから、出席点を加味するのはおかしいようにも思うのですが、「欠席したら減点します」というルールはどのようなのでしょうか。

Q4 「公欠に関して考慮してください」という趣旨の文書が配付されていますが、公欠の取り扱いの基準はありますか。

Q5 私自身は毎回小テストをしています。学生から公欠した回の小テストについて加点をしてほしいという要求があります。公欠イコール加点という認識がコモンセンスになっている部分があると思うので、明確に示していただく必要があると思います。

Q6 語学の授業を担当していますが、担当者として公欠は大きな問題で、ダブルスタンダードになっている印象があります。学生は何か配慮してもらえるものだという意識が強いのではないのでしょうか。

Q7 前任校でしばしば問題になったのは、就職活動のために、面接先から証明書の発行を受ける学生がいました。就職活動による欠席に関しては、校内での統一された制度のようなものはないのですか。

Q8 授業時間外の予習・復習の話が今日出ていましたが、予習・復習を学生に促すためには、どうしたらよいのでしょうか。予復習などで工夫をされている先生はおられますか。

Q9 研究関係についてですが、研究分野がヨーロッパに関する内容で、例えば1回出張すると、それで全部研究費を使い果たしてしまいます。海外出張で学会に参加・発表するという場合は別枠の研究

費を申請することができないのでしょうか。

Q10 心の問題を抱えた学生がおり、土曜日の授業で授業中にトラブルがあったことがあります。土曜日など事務が休みの日の対応はどうしたらよいのでしょうか。

中でも出席点や公欠の取り扱いについては、成績評価にも関わる問題であるため、活発な意見交換がなされました。明確な取り扱い基準のない公欠をどう取り扱うか等については、授業のルールとして、科目の特性などを考慮しながら、早めに授業を通じて教員が受講生に周知することが重要であり、また、コミュニケーションツールとしてWebシラバス機能をインタラクティブに活用できるとの意見がありました。

最後に

話題が多岐にわたり、これから継続的に考えていかななくてはいけない問題もありました。本日のように問題意識を持たれていることについては各学部教務課だけでなく、大学教育開発センターにもご意見いただければと思います。

以上で2012年度新任教員フォローアップ研修を終了させていただきます。また、これを機会に同じ年度の採用の同僚ということで、ネットワークを広げていただければと思います。本日はお忙しいところ、本当にありがとうございました。

FDサロンレポートとは

大学教育開発センターでは、教職員間の交流の場として、各種の教育活動の経験や意見が話し合えるように「FDサロン」を2002年10月から開催しています。

大学教育開発センターの運営に関わる教職員が、話題提供者をコーディネートし運営されています。話題提供者のお話に耳を傾け、お茶でも飲みながら自由に意見交換等が行える機会として定着してきました。しかし、開催時間や開催場所の問題から、参加ができないとの声も聞かれます。そのようなことから、FDサロンでの話題をもっと全学に還流させ、FDの取り組みを深めていくためにFDサロンレポートを発行しております。

FDサロンレポート 12-1

発行日:2012年11月

発行:龍谷大学 大学教育開発センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

TEL. 075-645-2163 FAX. 075-645-2190

<http://www.fd.yrukoku.ac.jp>